

# 保 育 奉 公

## 大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

みなし子にかたりきかせよ國のため命すてにし親のいさをを

御製のみこゝろは解き奉るまでもなく明かである。明治四十年の御製であるが、けふこの日の御製かまさへ、ひしく、感にたへず謹誦し奉るのである。みなし子さみ心をかけさせ給ふたのは日露戦役の勇士の遺児達である。その時の子らは、今や丁度立派な年齢になつて、み國のために盡してゐる。大東亞戦争に勇闘してゐる人々も必ずや少なくあるまい。或は、……自分も亦、その父と同じく盡忠散華の英靈になつてゐる人も數あることであらう。皆、幼き日に、盡忠獻身の父のいさをを語り聽かされつゝ成人した人々である。

身を以て訓ふさいふ言葉がある。これ程、眞に身を以てする訓へがあらうか。しかもその訓へは、親が子に訓ふべきことの中の最も軸心たる奉公報國の訓へである。これ程大きな親の教育が世にあらうか。かたりきかせよと詠じ出て給へる聖旨は、この教育の貴さ、強さを、御歌言葉の奥に示し給へるものにも謹誦し奉るのである。

しかも亦、この貴きいさをを語り聽かせることは、そのいさをを尊重感謝する心を以てのみなし得ることである。而してそれは、國民全體が、その尊重感謝の心をつににする時に於てこそ最も強くなる。子ぎもの中でも、わけても深い關心を禁じ得ざらしめる戦没將士の遺児は、國民全體がこの心を以てその父のいさをを語り聽かせる時にこそ、始めて、その子らしく成人せしめ得るのである。——その遺児らばかりにではない。すべての今日の子ぎも達に対しても、これ程貴く、これ程強い訓へが他にあらうか。

(倉橋惣三謹誦)